

令和 8 年度 県立土浦第一高等学校附属中学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>(生徒)・自ら考えて主体的に行動し、自ら課題を発見・解決する生徒の育成を目指す。 ・幸せな未来を創造するために、多様性を受容して他者と協働できる生徒の育成を目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、高い進路目標を目指して果敢に挑戦する生徒の育成を目指す。 (教員)・探究心をもって研究と修養に励み、自己の資質・能力向上を目指して学び続ける教員を目指す。 ・教育DXによる、業務の効率化及び教科指導の資の向上を図ることができる教員を目指す。 ・生徒が希望する進路を実現できるように、キャリア教育を組織的・継続的に支援する教員を目指す。 (学校)・生徒一人一人の人間力の育成と高い進路目標を達成する学校を目指す。 ・生徒の思考力・判断力・表現力を高める探究学習の実践と、主体的な進路選択及び将来設計を支援するキャリア教育の充実を目指す。 ・生徒の安心・安全を守るため、コンプライアンス、危機管理、いじめなどについての適切な対応の徹底を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、関係機関、そして国内外の教育機関等との連携を強化し、よりよい教育環境の整備を目指す。</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>「授業第一主義」を掲げて、1分1秒を大切にす る60分授業を実施し、質が高く、内容の濃 い授業を展開している。しかし、各教科等 で習得した概念や考え方を活用し、新た な問いを見出して解決する学習を一層充 実させる必要があるため、校内研修を とおして、課題解決学習の一層の充実 させる必要がある。保護者や外部人 材を活用したキャリア教育、企業や研 究所などへの訪問を実施している。起 業家精神醸成のための体験的な学習 等の機会や、それらの成果を表現す る活動を設定していく。学校行事や 生徒会活動、学級活動の場面で、多 様な意見を認め合い、折り合いをつ けて集団として意見をまとめる場 面が多く見受けられる。また、働 き方改革の取組として、教育DXに よる業務の効率化及び教科指導の 資の向上も必要とされている。</p>	<p>1 主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善</p>	<p>①見通しをもち、他者と協働しながら課題解決に取り組む学習の充実 ②生徒による授業満足度 3.5 以上</p>	
	<p>2 グローバルリーダーを育成するための探究学習及び国際理解教育の充実</p>	<p>③ドリームパス等の各種コンテストへの積極的参加 ④海外希望研修による多文化共生に向けた基礎づくり</p>	
	<p>3 生徒一人一人の希望進路を実現するための組織的・系統的なキャリア教育の推進</p>	<p>⑤キャリア形成のための保護者や地域住民等による対話的な関わりの確保 ⑥各教科における指導内容とキャリア教育との関連の明確化</p>	
	<p>4 自主的・自立的態度及び豊かな人間性を育成するための学校行事、部活動等の充実</p>	<p>⑦生徒の学校行事、部活動等への主体的な参画 ⑧行事活動を通じた課題発見</p>	
	<p>5 保護者や地域の理解と信頼を深めるための教育活動の積極的な情報発信</p>	<p>⑨保護者や地域との連携・協働 ⑩教育活動の積極的な情報発信</p>	
	<p>6 教職員の資質・能力の向上実現に資する業務改善と職場環境づくりの促進</p>	<p>⑪セルフマネジメントとコンプライアンス遵守 ⑫教育DXによる業務の効率化及び適正化</p>	

別紙様式 2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	基礎学力の定着を重視し、対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を高め、考え抜く力を育てるための授業改善に取り組む。	日々の時間割および特別編成時間割を円滑に運営し、生徒がよい準備のもとで計画的かつ効果的な学習に取り組めるよう、常に質の高い授業を展開できるようにする。	①	
		学校行事等を効果的・計画的に実施することを通して、生徒が意欲的・協働的に授業に取り組む環境を整える。	⑦	
		定期考査や実力考査の問題検討会の実施を推進し、考査で伸ばす指導を実践する。	①	
		学校・学年・教科にとらわれない相互授業参観を推進し、授業改善、指導力向上の研修機会を増やし、魅力的な授業が展開できる教員を育てる。	②	
	Global Learners Projectの深化を通して、探究学習および国際理解教育の充実を図る。	教科外での英語コミュニケーションの機会をさらに増やしていく。	④	
		土一ネットワークを積極的に活用して生徒達に多様なキャリア教育を行う。	⑤ ⑥	
		学校説明会や探究発表会など、生徒達が多く人の前でプレゼンテーションすることができる機会を創出する。	⑧	
	本校教育活動の特長と魅力を積極的に発信していく。	小学生や地域社会に対して本校の魅力を積極的にPRする広報活動を生徒の主体性を生かしながら推進する。	③	
		本校の教育活動の様子を、ホームページなどを通して積極的に公開する。	⑩	
	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。	⑪	
道徳の時間を中心に、教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成する。		⑪		
HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。		⑧		
渉外部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	学年後援会の活性化と、連携・協力体制の充実に努める。	⑨	
		学年後援会及びPTA行事への積極的な協力・参加を呼びかける。	⑨	
		授業参観、PTA総会出席者数の増加を目指す。	⑨	
	就学支援制度の積極的周知をする。	各市町村による就学支援制度の窓口として情報提供に努め、保護者が有効活用できるようにする。	⑩	
生徒支援部	基本的な生活習慣を確立し、節度ある生活をしようとする態度を育成する。 生徒の実態を丁寧に把握し、学校生活上の問題の早期発見・早期解決に努める。	挨拶の励行、制服の着こなし、校則の在り方等を学校全体で考え、規範意識の高揚に努める。	⑤	
		交通事故防止を目指し、交通ルールの遵守を徹底する。	⑤	
		移動教室時の施錠や貴重品袋の活用等、自己管理能力を育成する。	⑤	
		スマートフォンやインターネット等の適切な利用法を指導する。	⑤	
		職員・保護者・PTAが連携して、登下校時の見守り運動、校内での生活指導等を行う。	⑨	
		学年・部活動・委員会・他の分掌との連携を密にし、生徒の実態把握に努める。	⑦	

別紙様式 2 (中)

		アンケート調査・面談等を実施し、いじめをはじめとする学校生活上の問題を早期に発見、解決すべく全職員が一丸となって協力して取り組む。	⑤		
教育相談室	教育相談体制を確立する	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応生徒の未然防止に努める。	② ②		
保健厚生部	衛生的で安全な教育環境を整備するとともに、公共心を育み、危険予測・回避能力を育成する。	清掃活動の充実や適切な換気・照度管理を通して、学習に適した教育環境を確保し、公共心の育成を図る。	⑦		
		施設・設備の定期点検を計画的に実施し、危険箇所の把握・周知により、安全意識及び危険予測・回避能力の向上を図る。	⑧		
		災害を想定した避難訓練を通して、自他の生命を守る行動力を育成する。	⑧		
	心身の健康課題に関心を持ち、生涯にわたり健康を保持・増進する自己管理能力を育成するとともに、生命を尊重する態度を育む。	健康診断結果を活用し、生活習慣上の課題把握と改善に向けた保健指導を推進する。 性や人間関係に関する正しい理解を深める指導を行い、自己実現に向けた意思決定能力の育成を図る。	① ①		
		メンタルヘルスへの理解を深め、ストレスへの対処や適切な休養・睡眠など健康的な生活習慣の確立を支援する。	①		
		学年・担任と連携し、教室環境の整備を通して学習活動の充実に寄与する。 睡眠・食事・運動の調和を図る啓発活動を行い、自律的な学習習慣の確立を支援する。	② ②		
進路指導部	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が先進的な取り組みをする学校に訪問できるように支援する。	①		
		キャリアノート（キャリア・大学・ファイナンス）を積極的に活用し、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。	⑥		
		考査や外部模試の分析・情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解をもった進路指導ができるようにするため、学年との連携を密にする。	①		
		学年後援会総会、保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。	⑩		
		生徒の考査・模試の計画や振り返りを促進できるような場面の設定や教材の開発をする。	①		
		日々の学習を「見える化」するために学習記録表を活用する。これにより、自分の得意・不得意を客観的に把握し、効率的な学習計画の改善につなげていく。	①		
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に随時購入希望図書を調査し、蔵書の充実を図る。	⑥		
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理のあり方を見直す。	⑫		
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集していく。	⑥		
		生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を行う。 生徒の読書生活を高めるため、感想文コンクール等への積極的な参加を推進する。	⑩ ①		

別紙様式 2 (中)

	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。	⑩ ⑩		
ICT活用推進室	ICT環境を最適化し、各教科等における効果的な利活用を推進する。	教育環境の変化に応じ、既存設備の有効活用と計画的な更新を柔軟に行うことで、円滑な活用を支援する。また、校内研修等を通じて効果的な事例を周知し、教科指導におけるデジタル活用の定着と質の向上を図る。	①		
	教育DXにより校務を効率化し、安全な情報環境を整備する。	校務のデジタル化により業務効率を高め、生徒と向き合う時間を創出する。最新事例を用いた情報モラル教育を実施し、生徒と教職員のセキュリティ意識を高め、有事の際の対応力を組織的に強化する。	⑪ ⑫		
探究活動推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、附属中入門セミナー、フィールドワーク、中高交流及び外部講師ブラッシュアップ研修等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。	③		
	人的ネットワークの構築を推進する。	先進企業訪問、OBOG講演会、キャリア講演会、大学訪問等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築する態度を育成する。	⑨		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	先進企業訪問、OBOG講演会、キャリア講演会、大学訪問、ブレ海外探究、海外希望研修等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野をもった生徒を育成する。	⑤		
	グローバル人材の育成を推進する。	英語集中講座、即興英語プレゼンテーション講座、ブレ海外探究、海外希望研修等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら、グローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。	④		
国語科	生徒が主体的に言葉への自覚を高めるための授業改善を図るとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成する。	60分授業のメリットを生かし、学習内容を相互・個人で振り返る時間を設定することにより、思考力・判断力・表現力の一層の強化と自らの学びを調整する力を養う。	①		
		協働的な学びを実現する授業を実践し、認め励まし伸ばす指導の工夫・改善を通して、誰1人取り残さない指導を目指す。	②		
		基礎的・基本的な知識及び技能の習得と活用を意識した授業改善を図る。	②		
		言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成できる言語活動の設定。	②		
社会科	社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して授業改善を図るとともに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民	地理に関する知識と、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付ける。また、それらを位置や分布、場所、人と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して思考力・判断力・表現力を養う。	①		
		我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解し、それらの時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、思考力・判断力・表現力を養う。	①		
		人権について広い視野から認識し、政治や経済、現代社会、国際社会などについて理解し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、表現したり	①		

別紙様式2 (中)

	<p>主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。</p>	<p>する力を養う。 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養う。</p>	⑥		
数学科	<p>生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するとともに、さらなる授業改善を図る。</p>	<p>授業計画表を作成するとともに、高校・附属中の教員による相互授業参観、TT活用により、スムーズな中高連携を図る。</p>	②		
		<p>授業重視を徹底するとともに、日常の自己学習も徹底させる。</p>	②		
		<p>授業中心の学習計画を立て、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。</p>	①		
		<p>授業担当者間の連携を密にし、授業の進捗や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。</p>	②		
		<p>基本事項の理解を徹底するとともに、試験前等の問題演習を十分に行う。</p>	①		
		<p>授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。</p>	①		
理科	<p>自然に対する関心や探究心を高めるための授業改善を図るとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。</p>	<p>単元毎のグループ観察・グループ実験を行い、観察・実験に積極的に取り組み、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力や表現力を養う。 授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、発展的な内容や話題について提供する。外部講師による「科学実験講座」等を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探究心を育てる。</p>	① ②		
	<p>自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>	<p>授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し、科学的現象に対する学習意欲を高める。</p>	②		
保健体育科	<p>運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識をもたせるように指導する。</p>	<p>集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。</p>	①		
		<p>集団の特性に応じた、ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。</p>	②		
		<p>準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団や社会に寄与する精神を育てる。</p>	①		
		<p>保健において、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。</p>	②		

別紙様式 2 (中)

		保健において、グループ研究・発表を実施し、共同で学習する事によって仲間意識や責任感をもたせるよう指導する。	①		
音楽科	多様な表現活動を通して音楽における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、音楽に親しむ心情を培う。	②		
		学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。	②		
		生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、音楽の諸能力の向上を図る。	①		
		相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	①		
美術科	多様な表現活動を通して美術における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、美術に親しむ心情を培う。	①		
		学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。	①②		
		相互鑑賞等を通して、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	①		
技術・家庭科	生活の自立に必要な知識・技能を身に付け、生活課題を見いだして解決に向けて考え、表現する力を育成するとともに、協働してよりよい生活を創造する態度を育成する。	調理・製作・調査等の体験的活動を計画的に実施し、ワークシートや実習記録、振り返り活動を活用して、知識・技能の定着と実生活への活用を図る。	②		
		生活事象から課題を見だし、情報を分析・整理し、科学的根拠に基づいて解決策を考察・発表する学習場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	①		
		家族や地域と関わる学習活動や協働的な学びを通して、生活課題を多面的に捉え、よりよい生活の実現に向けて主体的に実践しようとする態度を育成する。	⑨		
総合的な学習の時間	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	ルーブリックなどを活用し、思考・判断・表現のプロセスや成果物を多面的に評価する。	①		
	人的ネットワークを構築する力を養う。	生徒が家族や地域社会の方々と協働し、家庭や地域をより良くするための活動を主体的に計画・実践できるような環境を整える。	⑤		
	英語力とICT技術を養う。	グループワークや協働学習を通して、互いの意見や価値観を尊重し、合意形成を図りながら課題解決に取り組む場面を効果的に設定する。	⑥		
		一人1台端末を活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。	⑥		
	幅広い視野を養う。	文化講演会、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野をもった生徒を育成する。	⑤		
コミュニケーション能力を養う。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。	⑤			

別紙様式 2 (中)

英語科	分かりやすい授業を展開できるよう授業を改善し、実践的コミュニケーション能力を養う。	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある分かりやすい授業を展開する。	③		
		英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。	①		
		読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸ばせるような授業を展開する。	④		
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。	②		
		表現力を向上させるパフォーマンステストを、年間を通して実施する。	③		
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。	③		
		スピーチしたり、スピーチの内容についてやり取りをしたりするなど、学んだ英語を活用する授業を展開する。	③		
		授業内にペアワークを積極的に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。	④		

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった